



## 保育科 教授

伊藤 美輝 (いとう よしてる)

Ito Yoshiteru

自己紹介 (プロフィール)	愛知県から山梨県に来て 35 年が過ぎました。今ではすっかり山梨県人です。 山梨県内のいろいろな保育園・幼稚園・社会福祉施設に沢山の卒業生がいますので、訪問すると懐かしい顔に会えます。山梨県立美術館の「つくろうあそぼう造形広場」の企画運営も 10 年目を迎えました。子どもたちとの造形活動から多くのことを学ばせてもらっています。
学生へのメッセージ	短期大学での 2 年間は、感性を磨くとても大切な時期です。私は、「感性」この言葉を 2 年間の授業で言い続けます。「動きながら考えましょう」「先ずやってみましょう」「いろいろなものに、いろいろな人に関わり、感じ考えましょう」と！あなたが何か挑戦する時サポーターになりますよ！
保有資格・免許	中学校教諭一種免許状 (美術) 高等学校教諭二種免許状 (美術)
研究分野	造形教育及び活動支援 (幼児、学童、障害者) 造形表現 ユニバーサルデザイン
主な担当科目	図画工作 I 図画工作 II 保育内容 造形表現 保育内容 総合表現
学内での活動	就職・キャリア支援委員会委員 学生部学友会担当 社会体験講座 II 担当
学外での活動	山梨県立美術館「みんなでつくる美術館」実行副委員長 山梨・ひとねっこアートワーク 代表 山梨ユニバーサルデザイン研究会代表幹事
所属学会	こども環境学会

主な職務実績（抜粋）

事項 (単独・共同)	年月日	概要
(教員研修会) 山梨県私立幼稚園協会中部地区研究会分科会 (単独)	H17年～ 現在 年間6回 開催	平成17年度は「心情を表現する」、平成18年度は「表現を考える」平成19年度は「舞台をつくる」、平成20、21年度は「造形技法」、平成22年度は「造形と科学」、平成23年度は「造形と生活」をテーマにしてWSを実施している。(山梨県私立幼稚園協会主催)
(教員研修会) 山梨県造形教育研究会及び山梨県造形教育連合合同研究会講師 (単独)	H23.3.15	山梨県内の幼稚園・保育所保育士・小学校・中学校・高等学校教諭を対象にして「感じることと保育の五領域との関係」について講演した。(山梨県造形教育連合合同研究会主催)
(教員研修会) 関東地区教員研修山梨大会フォーラムゲスト免許状更新講習講師 (単独)	H23.8.19	造形活動に含まれる科学視点をテーマにして、幼稚園教諭の指導上の観点における「子どもの科学の芽生え」を実際の製作活動を通じて理解することを目的としておこなった。同時に免許状更新講習としてもおこない、講習後試験を実施し評価を出した。(山梨県私立幼稚園協会主催)
山梨県私立幼稚園協会 免許状更新講習講師 (単独)	H24.8.1  10.17  11.14	造形活動による学びを「活動の過程、環境からの刺激と関わり」の視点から考察し、実際の製作活動を通じて理解することを目的としておこなった。

主な教育研究業績（抜粋）

著書、学術論文等 (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等	概要
「山梨子どもアートセンター及び子ども美術館構想について1」-山梨県立美術館における造形広場- (単著)	H17.3	山梨学院生涯学習センター紀要大学改革と生涯学習第9号	山梨県内における「子どもアートセンター」を中心としたアートセンターネットワーク構想についての考え方を示すとともに、その基本となる山梨県立美術館において企画運営している「つくろうあそぼう造形広場」の企画理念及び運営方針の説明と活動報告を示した。
「空と大地とその間で起きたこと」 (単著)	H23.4.26 ～5.1	第1回美術のプラクシス実践展 山梨県立美術館 A	3.11 福島第一原発事故を題材にして、ミクストメディアの技法で表現した作品10点を展示した。使用した技法及び画材は、コラージュ、ウオッシング、アクリル、パステル、クレヨン、水性ペンキで、100号2枚 A3サイズ8枚を組み合わせた作品となった。
造形ワークショップと子育て 支援: 造形活動を通じた親子の相互理解 (単著)	H23.9.9	全国保育士養成協議会第50回研究大会	2002年より実施している山梨県立美術館「つくろうあそぼう造形広場」を子育て支援の視点で考察を加えた報告。同じテーマで親子が製作することが、子どものモデルとしての「保護者の存在」と、保護者の子ども理解につながる「造形過程の共有による共感と理解」が存在する事を提案した。
「ACCUMULATE2011-星降る夜に-」 (単著)	H23.10.5 ～10.30	伊藤美輝作品展 甲府市内レストランパルスロー店内	2011年の個展としてピエゾグラフによる作品を12点展示した。今回のテーマ「星降る夜に」の作品は、プリンターを使用した多重プリントにより制作をおこなった。 技法上のテーマは、版画用紙へのプリントによる発色及び重ねる上での紙の耐久性であった。その成果は満足できる物であり、今後の制作において中心となる技法となった。